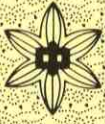


くまざさ



「同窓会館建設に」 何らかの形で参画を 湖陵同窓会長 久本 甫

今年も亦、同窓会の季節となりました。この一年よいニュース、いやな話と色々ありました。最も

癪にさわるところでは住専問題。あ、言うのを「泥棒に追銭」とでも言うのでしょうか。昔なら一揆が

起きていたところです。エイズ菌で人殺しの実験をするのに東京帝

国大学の医学部を出る必要はない苦です。大事な知識でなく人間性であり知恵なんですね。まあ

悪い方は枚挙にいとまがないと言るところ。でも嬉しい話もありま

す。湖陵高校の新任の教頭田中先生のお嬢さんがアトラクタのオリ

ンピックに出場したんです。それも競泳で。身近なビッグニュース

です。話は変わって同窓会館です。基礎工事も終わって次の段階へと進行

中です。会館建設が本式に旗揚げしたのが組村会長時代の昭和五十六年、爾来十五年間、賛否両論あり

ましたが悲願の会館です。見切

り

発車の感もありますが暮は切って落されました。鈴木豊治実行委員

長陣頭指揮のもと、目的完遂に向けて同窓生全員で邁進しようでは

ありませんか。竣工の晩には同窓会館と言う域をこえた、我が湖陵

が生んだ日本の建築家毛綱氏の芸術作品を我々同窓生の手で郷土釧

路に残すこととなります。巷の噂によると湖陵は同窓会館

を建てるのは難かしいだろう。それに較べて北陽は可能だろう。何

故なら同窓会長が市議会議長さんだから、などと言われます。若し

その通りでもなれば、会館が建つか建ぬかは、伝統でもなければ

母校愛でもない。金集めの政治力次第と言われても返す言葉は無い

と言ふことになります。況や「釧中・湖陵魂」なんて卒業生の戯言

と言ふ事になりかねない様に頑張

って
ビールで乾杯！



熱気の札幌湖陵会 学校長 帰 家 雄 治

札幌に初夏の訪れを告げる北海道神宮のお祭りで、街が賑わう六月十四日札幌湖陵会の第十回総会が開催され出席してきました。

会場は札幌ファクトリー煉瓦館。参会者全員で物故会員に黙禱を捧げた後、釧中三十一期石井様の指揮で校歌斉唱が行われました。

三百名を越す参会者による校歌の大合唱は、煉瓦館を揺るがす重厚な歌声となって響き、参会者は

遠い釧中・湖陵時代を思い出したことであろうし、私は、校長として責任の重さをひしひしと感じました。

来賓として、恩師の先生も参会され、各期毎のテーブルを周りながら往時の話に花が咲いて楽しい

歓談の輪が見られました。そんな中において、公務多忙にもかかわらず関口幹事長が、入口

で同窓会館建設の趣意書を参会者の皆さんに配布して説明している姿

を拝見し、同窓会館建設に寄せる同窓会役員の並々ならぬご努力に頭

の下がる思いで一杯になりました。時間の過ぎるのも忘れた一時を

過ごし、参会者一同心温まる思い

を抱き、来年の再会を約束して家路につきました。

その、同窓会館建設の工事は湖陵敷地の一角で順調に進められて

おります。設計は、湖陵十二期で多摩美術大の毛綱教授であり、春

採湖を見下ろす地に完成の晩は、新しい釧路の名所になるのではないかとその完成を、今から生徒とともに心待ちにしております。

同窓会館の建設は、旧校舎時代から計画され同窓会員皆さんの永年の強い願いであったと聞いております。生徒の部活動等に存分に活用させていただきたいと考えて

おります。創立以来の自由闊達な校風をもつて任じてきた本校の伝統をしっかりと継承しながらも、時代の動

向や変化に対応した清新な校風の確立に努め、進学や部活動で活力に満ちた湖陵を育て、同窓の皆様

の期待に添えるよう努力して参りたいと考えております。

今後同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げるとともに、母校

に対すより一層のご支援をお願い申し上げます。

同窓会会館建設にご協力を!

暑い毎日、お元気で過ごして
しょうか。構想十余年、様々な障
害を乗り越えて、待ちに待った同
窓会館がいま完成を目前にしてい
ます。当初8月末を予定してあり
ましたが一カ月工期を延長し、現
在、9月末完成を目指して着々と
工事が進められているところであ
ります。

地上3階、地下1階、日本建築
界の鬼才、毛綱毅曠氏(湖陵12期)
の設計によるこの建物は、『船』
をモチーフとした斬新なデザイン
で、きっと我が同窓会のシンボル
となるでしょう。

さて、今回この建物の建設に当
たっては、各期の実行委員の皆さ
んを中心にお願いいたされ、釧路
はもとより日本中の同窓生の皆さ
んに、建設資金としてご協力をお
願いしたところであります。
お陰様でこれまでに多くの皆さん
にご理解を賜り、ご寄附いただい
たところであります。ここで紙面
をお借りしてその募金活動の一部
をご紹介します。

今後とも、目標額までいま一層
のご協力をお願いする次第です。

謹啓

7月という一向に夏らしさの見えない酷暑ですが、皆様ご健勝でお
過ごしのこととお慶び申し上げます。
さて、わが母校湖陵高等学校の同窓会館の建設について、その建設費
用の一部をということで額中28期の皆様へ呼び掛けましたところ、こ
の趣旨にご賛同いただき、全国各地の同期の皆様、なかにはご遠旅の方
からもあって合計52名、金額にして535,000円のご協力をいた
だきました。この金額に先の卒業50周年記念事業のときの、記念植樹
予定の金額215,000円を加えて、計75万円を同窓会館建設事業
協賛会11座に振り込みをし、同封券名簿を同協賛会事務局に送付致しま
した。皆様の母校を思う心の現れがこのような予期以上の成果を収め
ることができたもの、と本当に心からうれしく思いました。
心からお礼申し上げます次第であります。
スケジュールによると8月末には同窓会館の偉容が見られますが、こ
こに重ねて皆様のご芳志に感謝申し上げ、ますますのご健勝をお祈りし
つつ心からお礼申し上げます次第であります。

敬具

平成8年7月吉日

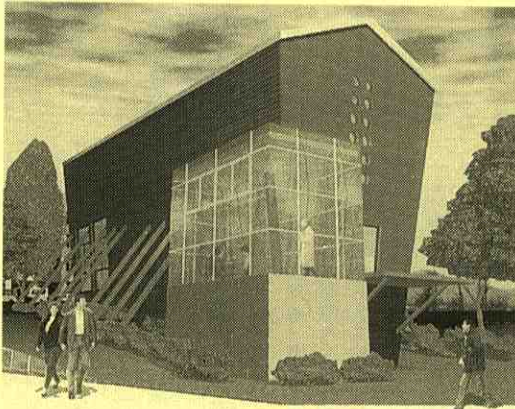
額中28期同期会 会長 黒坂 博
湖陵同窓会館建設 長谷 富士男
28期実行委員 新海 浩二

お振り込みを頂いた方には、領収書を同封致しました。所得税法の指定
寄付金に該当し、寄付金1万円が所得控除されますので確定申告時に
ご活用下さい。

北海道釧路湖陵高等学校同窓会館
建設事業協賛会 会長 黒坂 博
実行委員長 長谷 富士男
募金協力御寄附者様へ
御礼申し上げます
7月8日 黒坂 博

(札幌市在住)

北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設資金の 募金協力をお願い



▲完成予想図

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて私ども協賛会の念願でありました同窓会館が建設の運びとなり、
九月末の完成を目指して募金のご協力をお願いしているところでござ
います。我々同窓生は勿論のこと在校生、そして今後湖陵高校で学ば
れる後輩の皆様にも大いに活用していただくための会館でございます。
湖陵の伝統にふさわしい会館をと念じておりますので、何卒ご協力を
賜りますようお願いもよろしくお願い申し上げます。

平成8年7月2日

北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設事業協賛会 会長 久本 南
実行委員長 鈴木 豊治

●寄付金の払込(取扱金融機関及び口座番号・口座名義)

- 1) 富士銀行釧路支店 □座番号 普通預金 1501882
- 2) 北海道拓殖銀行釧路支店 □座番号 普通預金 3434782
- 3) 釧路信用金庫本店 □座番号 普通預金 1103412
□座名義/北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設事業協賛会 会長 久本 南
- 4) 小樽貯金事務センター(郵便振替口座)
□座番号 02760-8-28524

加入者名/北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設事業協賛会

お問い合わせ/☎23-5151(内線6520)(関口)

『ご注意 期によっては独自にまとめている場合がありますのでご確認ください。』

趣意書

皆様におかれましては、益々清祥のこととお喜び申し上げます。私ども母校は、大正二年の創立以来創中、創高、湖陵と八十余年の年輪を刻み幾多の試練を乗り越え発展を続け、今日に至りました。その間約二万六千名の卒業生は、金道はもちろん金國で有為な人材として活躍しております。

さて、母校の校舍改築や八十周年記念式典も終え、この度今年の願望であった同窓会館（仮称）の建設に向けて、いよいよ募金活動を開始する運びとなりました。

この同窓会館は、創立以来の貴重な記録、資料、同窓生の芸術品を保存、展示すると同時に、在校生の部活動並びに同窓生やPTAの各種会合等に提供し、伝統ある諸活動が一層充実され有為な人材育成とともに、貴重な芸術品に直接触れることにより情操教育の一助にも寄与するものと考えております。

何卒、この趣旨にご理解いただき本事業達成のため絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、皆様のご協力により完成した同窓会館は、より一層の活用を願い完成後直ちに北海道（北海道釧路湖陵高等学校）へ寄附することといたします。

平成八年一月吉日

- 北海道釧路湖陵高等学校同窓会館建設事業協賛会
- 協賛会会長（全日制同窓会会長） 久本 南（湖陵7期）
 - 協賛会副会長（全日制同窓会副会長） 遠藤 隆吉（湖陵10期）
 - 同（全日制同窓会副会長） 北明 正紘（湖陵7期）
 - 同（全日制同窓会副会長） 河原 森戸（湖陵7期）
 - 同（定時制同窓会事務局長） 原 村 英（湖陵6期）
 - 同（湖陵同窓会東京支部長） 栗村 正明（湖陵1期）
 - 同（湖陵同窓会札幌支部長） 栗林 正明（湖陵13期）
 - 同（湖陵同窓会十勝支部長） 河崎 弘（湖陵1期）

募金協力のお願い

寒さ耐えがたい候、同窓生の皆様には益々清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より、同窓会の運営にあたりましては、格段のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて協賛会では趣意書にもありますように念願の同窓会館を建設する運びとなり、その実現をめざして募金のご協力をお願いしているところでございます。

なおこの同窓会館は我々同窓生が活用することは勿論のこと在校生、そして今後湖陵高校で学ばれる多くの後輩の皆様にもおおいに活用していただくための会館でございます。

湖陵の伝統にふさわしい会館を建設致したいと思っておりますのでどうかご協力を賜りますようお願いもよろしくお願ひ申し上げます。

平成八年一月吉日

- 北海道釧路湖陵高等学校
同窓会館建設事業協賛会
- 会長（同窓会会長） 久本 南
会 長（同窓会副会長） 鈴木 豊治
実行委員長（同窓会副会長） 鈴木 豊治
- 同窓生各位

同窓会設立功労者 米内富久司氏逝く

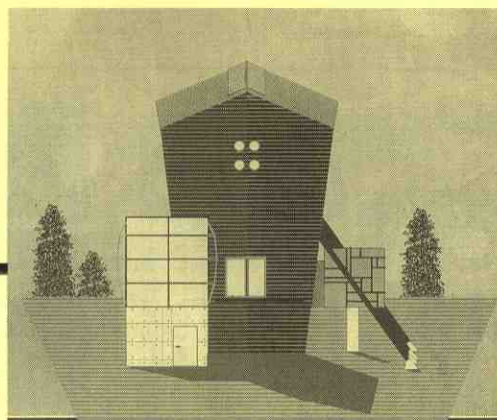


現米内印刷株式会社社長米内先輩が、去る三月十九日午前八時二十五分逝去された。同氏は明治四十五年釧路市生まれ、昭和四年釧路中学校第12回卒業生。郷土の詩人として今も健在で文学運動で活躍なさっておられる野尻静氏と同期で、昭和30年代本校同窓会設立の委員として活動され今日の発展の礎を築かれたおひとりである。卒業後は家業の印刷業に従事し、昭和二十四年社長に就任、五十二年から会長に。釧路商工会議所顧問や釧路北ロータリークラブ初代会長などを務められた。

大先輩の逝去に、数々の同窓会支援でのご功労に感謝し、心から弔意を表し茲に謹んで御冥福をお祈りする次第である。

完成!

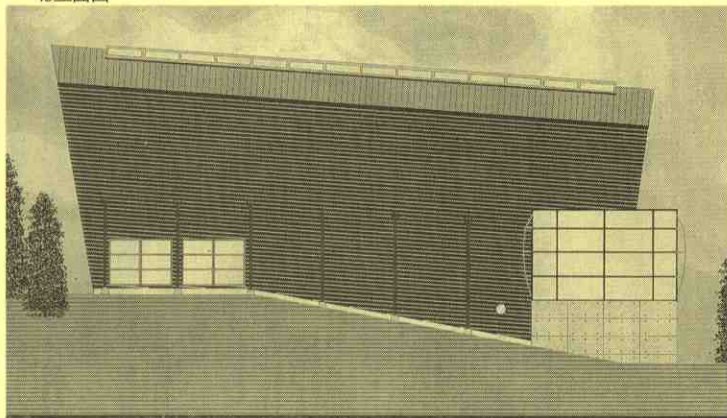
放的な建物となる同窓会館が、
廣氏(湖陵12期)設計による船
はどんな夢を乗せるのだろう!



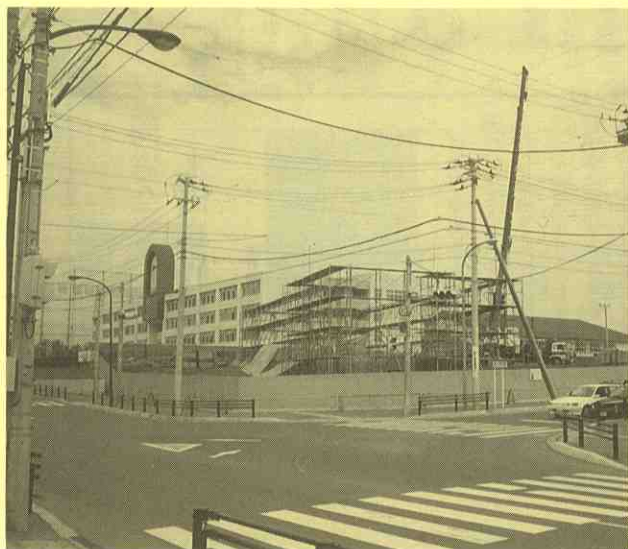
東立面図



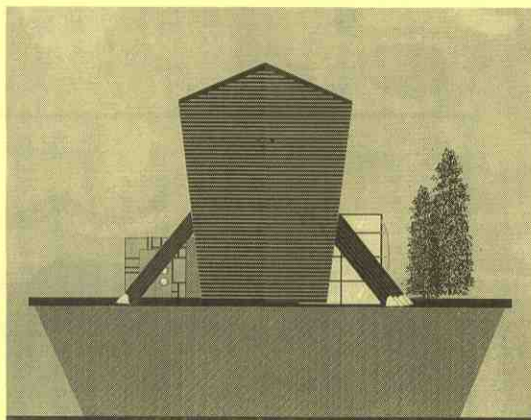
北立面図



南立面図



工事現場

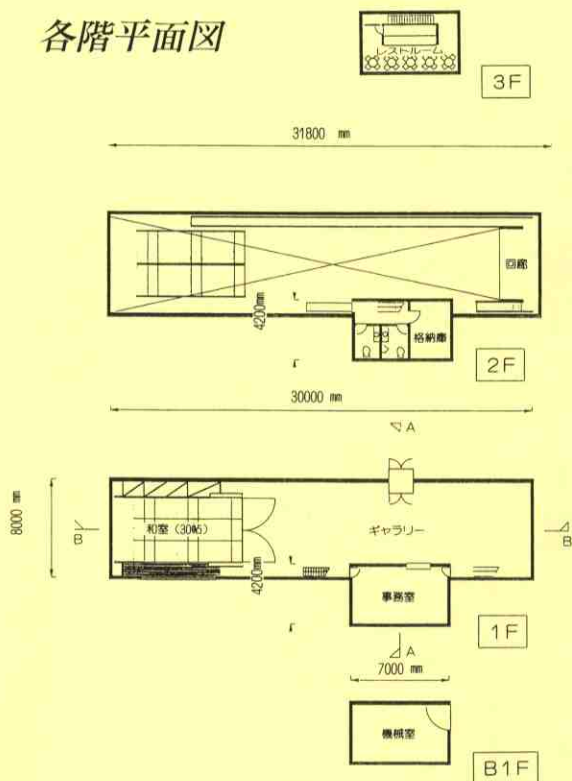


西立面図

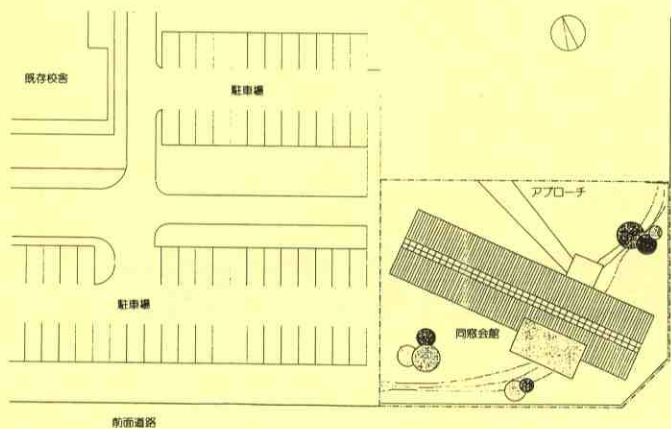
同窓会館 待望の9月

釧中・湖陵同窓生 26,000人の象徴
 遂に9月末完成を迎える。鬼才毛綱毅
 をモチーフとしたこの建物に、後輩たち

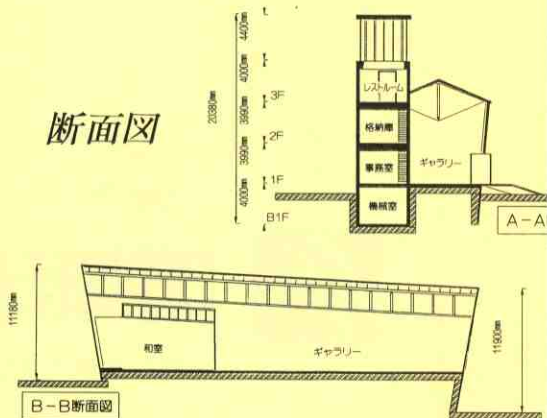
各階平面図



配置図



断面図



奥田 達也(釧高13期)の

誠愛勇から

古谷武一の巻

(釧中13期)



平成八年四月十八日午後六時前、吹雪の中、古色蒼然たるコートを着て古谷武一が現われた。

湖陵高同窓会館建設の寄附集めの会場、前幹事長、湖陵四期の副会長遠藤隆吉が迎えて面倒をみる。大先輩というだけでなく義兄にあたるから。八十三歳の高齢。

だが正直、今夜の会議、今回の寄附集めに役立つのか、と危ぶむ。会議は当然に、湖陵高各期の幹事ばかりで、積極的に手際良く、市内各企業廻りの分担をきめてい

く。三期の坂上洋治、山口喜彦が示唆する。二人一組である。

同窓会では、その時代に合う現役の活躍がある。昔は釧中先輩諸氏が現役有名人として奔走した。が、今は六十二歳以下の湖陵高卒者が現役有名人なのだ。

私も隣席の古谷武一も大人しい。今の企業主に情が通じておらなければ母校でもない会館の寄附などお願ひにあがれるわけがない。

そもそもこの会合の前後の会合にも釧中各期の幹事は出席しない。平日の夜、お茶も出ない遠隔の会

老躯に鞭打つ釧中魂

同窓会館の寄附集めに奔走

場へ嫌われる役目を背負いに出掛ける殊勝な老人はいない。

しかし、古谷は積極的募金に走り廻った。市内の大企業へ若い後輩の車に乗せて直接伺った。

(以下拙著「釧中物語」より)「ブッチャーン」の愛称で同級の人気をおつめ、推されて市議にでたのも、学業成績のよかつたせいとい

うよりは、面倒みのよいことによる。誰からも愛される人なつたことが彼にはある。それがまた彼のこれまでの人生にプラスとなつて

きた。

菅原寛也先生に愛育されたこと

もそうであり、卒業後に就職した丸六中西商店の二代目中西六太郎の薫陶をうけたのもその事にある。

政治にかかわりをもつた戦後は、釧中三回生の伊藤郷一に可愛がられた。釧路埠頭に入ってからは一

回生の中川久平に指導を受けた。釧路スタンダード石油、そして丸果釧路青果卸売に勤めては山本幸造の引き立てを受けている。「私は多くの先輩、先生に可愛がられました」としみじみ話す古谷

武一が、その恩返しに故郷釧路のため、釧中・湖陵のため奔走するのは当然のことであろう。

「釧路を働く場所の多い街に。公害のない街に。市民の税負担の少ない街に」と語る彼が四十八年十

月の市議選には落ちた。次点の千八百九十二票であった。立正佼成会と釧路埠頭を地盤とした、とい

われる古谷は、その後も自由民主党釧路市副支部長として精力的に活躍してきている。道議の滝沢勉、市議の鰐淵俊之

らと道・市政報告を街頭でした。

中川久平、丹葉節郎亡き後、釧中魂「無きか」と思いしに古谷武一が居た。大人しく目立たなかつたので忘れられていた。派手ではないが心に秘めて。教育大学釧路校後援会長他に幾多の役職を今も持ち忙しく歩き廻っている。

釧中・湖陵のため全精力を挙げ老躯に鞭打つて活動しているのだ。いな古谷だけではない。声こそ出さず、問えば曰く「時節到来の際には、范蠡なきにしも非ず」との心境」と長内宏前会長。

六月末日に建設費の第一回の支払いを済ませた。更に全力を挙げて募り、年内完済を目指す鈴木豊治(湖陵高十六期)実行委員長を陣頭に全役員が真剣に奔走している。

(だが一方、母校愛を萎えさせる現状もみられる。

町田康雄校長の頃、校舎は貧弱だったが校外であれ部外者にさえ「こんにちは」と挨拶をした師弟が

今、校舎を訪れ、尋ねても返事はなく、職員室に入っても何の挨拶もない。礼儀は悪くなった。同窓会館など部外者が勝手に……。在校生の部活動などに使われるのに。

「無償の心でなければ母校を訪れては裏切られる」校訓に「智」はな

いつも、新しいコミュニケーション



田畑印刷文具株式会社

〒084 釧路市鳥取大通4丁目17 TEL(0154)51-2113 FAX 51-1992



社会人になって

田中友博

高校を卒業して消防で働くようになり、もう四ヶ月が過ぎようとしています。自分の中の時間では、学生時代が昨日のように思えるほどです。それも社会の厳しさに触れながら、訓練や仕事をして、忙しく時を過ごしたせいではないでしょうか。

一人暮らしを始めたせいもあるのですが、私は学生時代をあまりにも楽に過ごしていたことに、この四ヶ月間で気がつきました。朝起きて来て、出来上がっている朝食を食べ、学校へ行き勉強をして自分の好きな部活動に出て疲れて帰ってくると、食卓には夕食が用意されており、風呂が沸いていて、汚れた衣服は、洗濯場へ出しておくだけという毎日、そのような生活から一転して今度は、自分で自分の身の周りのことをしなければならなくなり、自分の行動・言語一つ一つに責任をもつという社会の大変さを、誰よりも身にしみて感じているつもりです。

消防での仕事というと、体力作りの三ヶ月間の訓練も終わり、事務的な仕事も増えてきて覚えなければならない仕事をして、新鮮さを味わっ

ばいけない事が山ほどあります。毎日少しずつ仕事に慣れはじめますが、やはり新人なので失敗することは何度もあり、その度、上司に叱られ、「もう、仕事をやめたい」と感じた時もありました。そんな時、仕事が終わった後、他の職場で働いている友達と会って、職場での愚痴や失敗談を聞いているうちに「やはり、みんな自分と同じような失敗をしたり、考えを持っているんだ。」と思ひ、気持ちが悪くなることも度々です。最近では、失敗に慣れたと言うことではないのですが、叱られても勉強の一つだと思ひ、次からは同じミスはしないように努力しています。

高校の同級生と話していると、制服を着ていた学生時代を思い出した時、時には「もう一度学生時代に戻りたい。」と思ったこともありましたが、自分の選んだ道は間違っていないと思ひ直しています。

私は、今までに経験したこの新しい仕事をして、新鮮さを味わっ

社会人一年生

ていますが、これからもその気持ちを忘れず、自分の進んだ道を信じて、時間を無駄に過ごさぬよう、

強く生きていきたいと思っています。



自分の選んだ道

馬淵香織

超氷河期と呼ばれる就職難の中を私は何事もなく通り過ぎたように感じた。しかし実際、会社という組織の一員として働くことの厳しさというものを今、痛切に感じています。

例えば、学生の時には常識のように通用していたわがままや甘えというものが、一切、通用しないどころか、自分の取った行動の一つ、一つが自分に跳ね返りまた会社の運営そのものにも関わってくるのですから、中途半端なことではできません。

また、社会に出てから人間関係の煩わしさに、それに伴う言葉使いの難しさにもかなり苦労しました。学生時代にはほとんど使わなかった敬語がどうしてもうまく使えなくて、最初の内は電話を

取るのもとても厭でした。そしてある程度、職場の雰囲気にも慣れてきた頃には、もう既に

しても自分の選択が正しかったと、胸を張って言えるだけ今の状況に満足はできません。

それでもこの三ヶ月間で、今まで気付かなかった自分の強さを知りましたし、自分に自信が無くなっている時の人の優しさがとても心に染み入るということも知りました。また社会に出てから苦労したのが今では自分の自信につながっています。もし私が、これからまた新しく何かを始める時でもきっとそれは私の大きな支えになると思っています。そういう意味で、18歳の社会人になることを選んだ私は間違っていないかと思ったのかも知れません。

みなさんはこれからいろいろな選択肢の中できつとどれを選んで、自分にとって必ずしも満足していく道でないこともあるかと思いますが、自分の選んだ道に自信を持って進むことができると何かを得ることができると思っています。



当番期紹介

湖陵二十四期会代表

葎本正美



同窓生としての誇りを持ち、40代の働き盛りとして、頑張っております。

昨年、第3回釧路湖陵同窓会ゴルフコンペの幹事をさせていただきました。昨年の今ごろは準備に、5、6人集まりました。25年振りに会う方もいました。とてもなつかしく、高校時代の「初恋談議」あこがれの君の話をし、大いに盛り上がりました。高校の同窓は不思議なもので、高校時代、一度も話をしたことがない方でも、10分もすると、打ちとけ、話が出来、髪が白くなり、薄くなっても、高校時代の顔となり、俺、おまえと呼び合える楽しさを実感出来ることあります。そのなつかしさ、楽しさから、ゴルフをしない仲間も集まり、一諸に楽しく準備を進めました。その結果、今年度の同窓会の当番期に向けて、結束が固まり、楽しみにになりました。その意味でも、当番期の前に、ゴルフの幹事

本年度の当番期で14期、24期の顔合わせが、5月20日(月)とん喜において行なわれました。会議の後、我が仲間(七名程出席の予定であったが、金子君、成が沢君、北島君と私の4名しか出席しておらず、他の期は10名程出席)は大変燃えており、6月に入ったらずく、各クラス一名づつ集め、準備会を作り、24期の頑張りを見せよう。」と大変な危機感を持ち話し合い、人選を進め、(声がかかった方は大変気の毒でありましたが)さつそく手配けして、声がけしたところ、皆気持良く集まっていた

私達は、昭和28年、29年生まれで、昭和44年入学、47年卒業の期であります。高校3年生の受験時期に、札幌オリンピックと浅間山荘事件があり、テレビの前にくぎ付けになり、受験に身の入らなかつたことを記憶しております。

だき大変感激いたしました。6月に入り、毎週火曜日、我々学生時代によく行っていた、なつかしの「リリー」で、夜7時から集まりました。本年度は同窓会館が出来ることになり、皆寄附について、会う度に種々な意見が出ました。そのような中、会券の販売、寄附広告集めについては、なかなか困難な年であることを一同確認合いました。しかし何としても、今年度の同窓会を成功させようと思

(私自身浪人した言い訳ではありませんが…)大学をストレートに入学し、卒業された方は、オイルショックで、大変な就職難の時代でありました。「モレーツ」世代と「レジャー」世代のちょうど狭間の世代であり、あまりめぐまれた世代ではありません。釧路の財界の2代目も少なく、同期は、みごとに高所得者に載っておりません。(同窓会館の寄附の少なさを弁解する訳ではありませんが…)しかしながら皆、釧路湖陵の

と考えると、大変意義のあることと考えます。

を一つにいたしました。さすがに働きざかりの湖陵の同窓は、すばらしい意見が出、楽しくスムーズに準備実行が出来ました。すばらしい同窓会になることを確信しております。この準備を、10年に一度させていただくことは、同期とのきずなを深め、同窓の「思い」を深める上で、大切なことと実感いたしました。我々の通っていた校舎がなくなり、新しい場所、校舎となり、湖陵高校への愛着が薄れつつある中で、同期とのきずなを介し、母校への新しい愛着がわきつつあることを実感いたしました。この「思い」を大切にして、同期会活動、同窓会活動を活発にしたいと考えております。最後に、私のような弱者を代表にしたいいただき、真剣に準備していただいた24期の幹事さんに、心より御礼申し上げます。又、14期、34期の皆様、大変御苦労様でした。今後共よろしく願います。

編集後記

今号は、前号に続き同窓会館についてご紹介しました。構想のみ、話だけが先行していたこの計画は、本年、まさに英断をもって実行に移されました。完成の晩には、ギャラリーとして開校以来の貴重な資料や芸術作品が収められる他、和室、回廊、レストルームなどは、同窓生はもちろん、平時は在校生の部活動、PTAの会合と種々の利用が図られることとなります。建設資金の寄附については既にご存じのことと思いますが、クラス皆で持ち寄り、皆で作ったあの行灯のように、あの時と同じ思いで今度は同窓生みんなで会館を建ててしまおうということで、皆さん、是非とも協力しようではありませんか。

(石川記)

くまざき編集委員会

- 同窓会会長 久本 甫
- 同窓会幹事長 関口 政司
- 編集委員長 上岡 信明
- 編集委員 奥田 達也
- 平野 清次郎
- 石川 和男

